

# 白石市・海老名市姉妹都市提携30周年記念式典



▲9月に海老名市で開催した「海老名市・白石市姉妹都市提携30周年記念式典」で両市が交換した記念品を披露する山田市長と内野優海老名市長（右）

## 白石市・海老名市姉妹都市提携30周年 さらなる友好・親善交流を誓う！

この日の記念式典には、本市と海老名市のほか、姉妹都市である登別市の関係者など約60人が出席。第1部では白石高校マンドリン部の演奏が行われ、出席者は繊細で優美なマンドリンの音色に聞き入っていました。第2部の記念式典では、山田市長が「姉妹都市提携30周年を新たな契機として、海老名市との交流の輪が世代を超えて

姉妹都市提携30周年記念式典・祝賀会を開催  
11月8日、ホワイトキューブ大林組コンサートホールで「白石市・海老名市姉妹都市提携30周年記念式典・祝賀会」を開催しました。本市と海老名市との関係は、海老名市に本社がある工場が白石にあり、民間交流が盛んであったことなどから、平成3年10月に「白石・海老名友好親善交流協会」が発足。同年11月1日に友好都市提携の盟約を締結したことに始まります。その後、平成6年10月に、両市がより一層の友好と理解を深め、発展することを念願し姉妹都市を締結しました。この締結以降、本市と海老名市は、少年野球交流、産業経済、教育、文化、福祉などさまざまな分野で相互交流が深まりました。



1\_9月に海老名市で行われた「姉妹都市提携締結30周年祝賀会」の様子、海老名市の子もたちがうーめん体操を踊ってくれました！  
2\_市民団が視察した海老名サービスエリア 3\_さらなる交流を誓って乾杯！

広がっていくことを祈念します」とあいさつ。内野海老名市長は「9月15日に海老名市で開催した『海老名市・白石市姉妹都市提携30周年記念式典』の際は、白石市から市民団をはじめ、多くの皆さんに参加いただき感謝する。今後もスポーツなどを通じて両市との関係を一層深めていきたい」と述べました。また、式典の最後には、海老名市での記念式典で交換した両市の記念品が披露され、今後のさらなる友好・親善交流を誓い合いました。

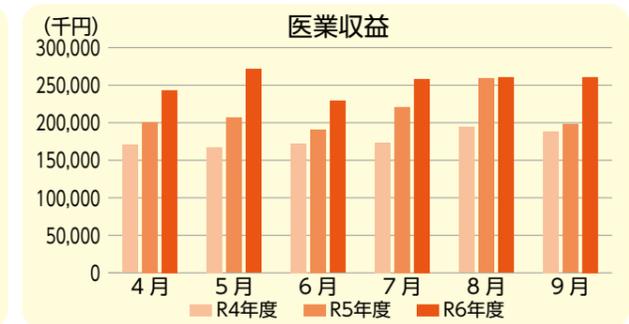
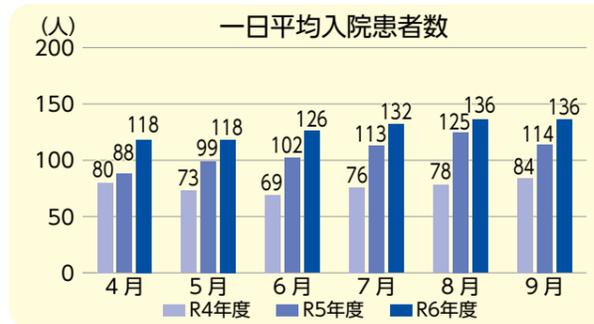
## 令和6年度上半期 公立刈田総合病院の運営状況

健康推進課（病院事業管理室） ☎22-1362

指定管理者による病院の管理運営が開始されて2年目となりました。今回は、令和6年度上半期の公立刈田総合病院の運営状況についてお知らせします。

### (1) 患者数と医業収益

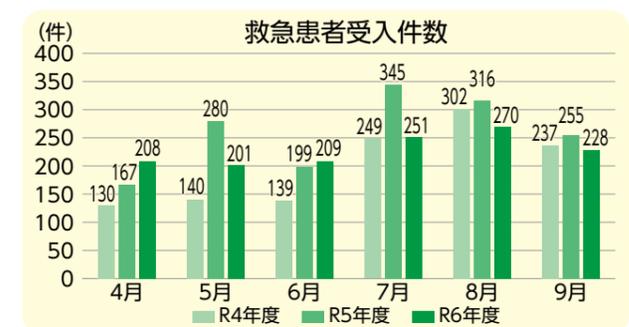
一日平均の入院患者数については、各月で前年度を上回っています。9月には152床中、一日平均で136.4床の病床が稼働しており、稼働率は89.7%となりました。また、患者数の増加により医業収益も増加しており、前年度と比較し平均で117%の増加率となっています。



### (2) 救急患者受入件数

救急患者受入件数は、救急車で搬送のほか、休日・夜間等に緊急で受診した場合の総数となります。

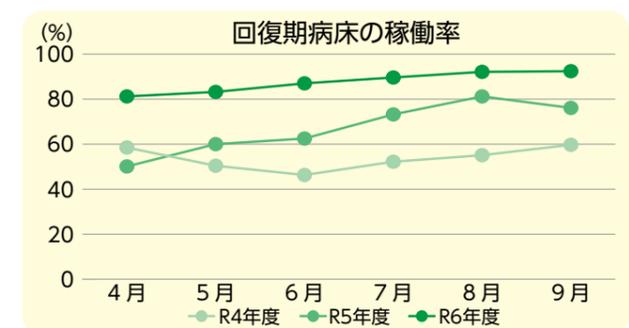
指定管理者による救急医療体制の再構築により、令和6年度は、上半期平均で月228件の受入状況となっています。



### (3) 回復期病床について

公立刈田総合病院では、152床の入院ベッドが稼働しており、そのうち、急性期を脱し在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する回復期病床は99床あります。

みやぎ県南中核病院との「連携プラン」により、急性期機能を維持しつつ仙南医療圏において不足している回復期医療を担うこととされており、指定管理者制度導入前と比較し、回復期病床の稼働率は大きく改善されています。



▲寄贈された「蔵王麗朗」

### topic

女川町出身の洋画家佐藤幸子さんから公立刈田総合病院を運営する医療法人仁誠会に絵画が寄贈されました。寄贈された作品「蔵王麗朗」は11月から刈田病院1階ロビーに展示されています。同病院の伊藤特別管理者は「縁あっていただいた素晴らしい作品を、来院した皆さんにも見てもらいたい」と話してくれました。